



今日のトピック 豪州準備銀行は金融政策を据え置き
景気堅調で金融緩和から徐々に脱却へ

ポイント1

金融政策は据え置き
RBAは労働市場の回復を評価

- 豪州準備銀行（RBA）は6月1日の金融政策決定会合で、翌日物金利と3年物国債利回りの目標を0.1%に維持し、国債購入プログラムも据え置きました。
- 声明文では、「豪州の景気回復は以前の予想よりも強く、今後も続く予想している」と回復を評価しています。また、「失業率の低下は予想以上」、「一部では労働力不足が報告されている」など、労働市場の強さにも言及しています。

ポイント2

インフレ率の加速は緩やか
2024年まで金利据え置き継続へ

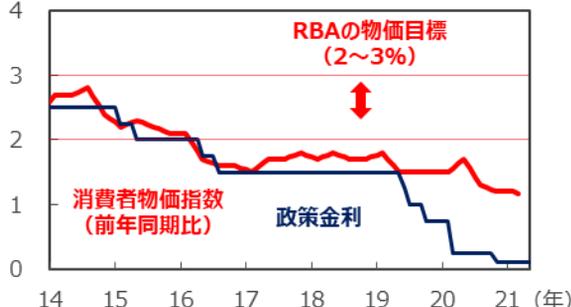
- 一方、「景気と雇用の力強い回復にもかかわらず、インフレと賃金の上昇圧力は抑えられている」としており、今後についても「物価と賃金の上昇が期待されるが、緩やかで小幅なものになる公算が大きい」と予想しています。
- こうしたことから、「実際のインフレ率が2～3%の目標範囲内に持続的に収まるまで翌日物金利を引き上げない」、「2024年までにこうした状況になるとは予想していない」と政策金利据え置きを続ける方針を改めて示しています。

今後の展開

金融緩和からの脱却姿勢が豪ドルの支えに

- なお、7月の次回会合では、時間経過に伴って短期化している3年国債利回り目標の対象を、2024年4月償還国債から2024年11月償還国債に延長するかが議論されます。延長されなければ緩和縮小に備えた動きと市場に解釈されると考えられます。RBAは貸出プログラムについても予定通り6月中に終了させる方針を示しており、堅調な景気を受けて金融緩和からの慎重な脱却が視野に入っています。
- 豪ドルはこのところ対ドルで一進一退の展開が続いています。しかし、金融緩和の縮小観測が生じれば豪ドルが他通貨に対して上昇する局面も想定されます。

(%)【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2014年1-3月期～2021年1-3月期。変動の大きい項目を除外したトリム平均値。政策金利は2014年1月～2021年5月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(円/豪ドル)【豪ドル円レートと豪日金利差】



(注) データは2019年1月1日～2021年5月31日。豪日金利差は3年国債利回りの差。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2021年5月13日 アジア・オセアニアのリート市場は続伸
2021年5月12日 ダイバージェンスからコンバージェンスへ (吉川レポート)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。